

改訂版 編集の序

『改訂版 糖尿病診療ハンドブック』をお届けいたします。2007年に初版を発行してから5年目になりました。日進月歩の医学・医療の変化があり、糖尿病臨床の領域でも様々な情報が追加され変更になっています。最大の点は日本糖尿病学会がHbA1cの表記法をNGSP値に改訂したことです。これによりHbA1c値が従前より約0.4%高く表記されることとなりました。これまで「6.5%未満を目安にコントロールしましょう」と表現したところが6.9%未満となり、まだ馴染みが薄いところではあります。

治療薬としてはいわゆるインクレチン関連薬としてDPP-4阻害薬やGLP-1作動薬が登場し広く臨床使用されるようになりました。また大規模臨床試験としてACCORD, ADVANCE, VADTなどが発表され、糖尿病患者の心血管疾患のリスク低減にはHbA1cで表現される血糖コントロールの改善のみでは必ずしも良い結果は得られないとして食後高血糖、脂質異常などの問題がクローズアップされています。

本書もすべてのHbA1cの表記を改めるだけでなく、新規知見を加え、症例やエビデンスとなる重要論文の説明を加えました。2012年は診療報酬改定や各種学会の診療ガイドラインの改定も実施されており一部は本書編集の段階では試案にとどまっているものもありましたが、動向を探りながら可能な限り取り入れています。

本書制作の基本路線であるレジデントや糖尿病を専門としない医師、コメディカルの皆様にはわかりやすい、ためになる診療エッセンスをお届けするという点は変わりません。ぜひ一冊をいつも傍らにおいてお役立てください。

本書では順天堂大学 綿田裕孝教授、河盛隆造教授のご監修のもと、より専門的なアドバイスをいただきました。日頃より編者が敬愛する執筆の先生方には詳細な記述の見直しや加筆をいただき感謝いたします。改訂版発行に全面的に尽力いただいた羊土社編集部の鈴木様に深謝し、改訂の辞とさせていただきます。

2012年4月10日 桜満開の朝

日吉 徹



unite for diabetes

世界の糖尿病有病者数は成人(20~79歳)の全人口の8.3%で、2030年には5億5,200万人になると予測されています。世界では10秒に3人が新規に糖尿病を発症する計算です。国連は2006年12月、糖尿病に関する決議を採択しました。

決議には「11月14日を国際糖尿病の日と定め国連加盟国に施行を求める」「各国が国家的見地から糖尿病に対する施策を奨励する」「広く認知されるよう報道機関への支援を求めていく」などが盛り込まれています。

ブルーサークルと呼ばれるシンボルマークが制定され「糖尿病に対して団結していこう(Unite for diabetes!)」と宣言しています。

Unite for diabetes! この本も同じ思いで 皆様の座右の一冊となることを希望します。